平成１２年１２月号（通巻３１号）

にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

会員だより

「町営温泉　夕映」
北海道　天塩町

天塩港は、羽幌港と稚内港との中間に位置し、北部日本海に面する天塩川を利用した河口港として整備されました。

古くは利尻・礼文島との交易連絡港であり、現在は西天北地域開発の拠点として、また、留萌港・稚内港の補完港として重要な役割を果たしています。

昭和55年からは新港地区の整備が開始され、沿岸漁業の基地として漁業施設の整備、利尻・礼文島を結ぶ離島フェリー航路の拡充に対処するフェリー施設整備並びに道央方面への鉱産品の需要増に伴う供給施設整備等、地域振興を基本方針として鋭意港湾整備を進めています。

本年６月16日にオープンした「天塩温泉夕映」は、背後に鏡沼海浜公園があり、各種イベントに集まる町民や観光客が気軽に利用出来るように配慮した施設になっています。

これまで、天塩町には温泉施設がなく、過去２回温泉掘削ボーリングを行いましたが、不調に終わり３度目の正直で見事で温泉を掘り当てました。

建物は２階建てで、一階部分は、フロントのほかに無料休憩室やレストランがあり、大浴場は階段を上がった二階にありますが、エレベーターを備え、バリアフリー対応になっています。

オープン１ヶ月で18,900人、３ヶ月で５万人を突破し、１日平均で640人が訪れ、町の年間目標である12万人も超えそうな勢いです。

今回の温泉オープンが、天塩町の魅力を高め、地域の活性化につながることを期待しています。

天塩温泉「夕映」

会員だより

「小樽港北防波堤選奨土木遺産に」
北海道　小樽市

平成12年11月８日、小樽港北防波堤が社団法人土木学会が創設した「選奨土木遺産」の初代の10件に選ばれました。選奨土木遺産は幕末から昭和20年までの、歴史的価値のある近代土木施設を対象に毎年10件程度選定されるもので、歴史的な価値がありながら壊されていく事の多い土木施設の保存を目的に創設された制度です。

小樽港北防波堤は、当時港湾工学の権威であり、小樽築港事務所長であった廣井勇氏の手により、1897年一期工事が始まり11年後の1908年に完成しました。当時としては最新の技術であった火山灰を混ぜ強度を増したコンクリートブロックを斜めに積み重ねる「斜塊式」工法を導入しひび割れを防ぎ、その後の防波堤の建設工事に大きな影響を与えました。その後何回かの改修・延長工事を経て現在の姿である全長1,542mとなりましたが、一期工事でつくられました1,289mは今なお現役で使用されています。

同じ頃に作られました防波堤のほとんどが現在解体されていたり、改修されて当時の姿をとどめていない中、「100年に渡り現役で活躍している小樽港北防波堤は驚異」との評価を受けて今回の受賞となりました。

北防波堤側面状況

防波堤築造に使用されたブロック

紹介

「ザ・シンポジウムみなと in 札幌」開催
市民生活を支える港　～有珠の教訓を踏まえて～

さる12月４日、札幌市にて、「ザ・シンポジウムみなと」が開催されました。本シンポジウムは、北海道の発展の核となる「港湾」について、道民の方々にその重要性を理解していただくとともに、広く「みなと」をＰＲすることを目的に毎年１回（平成７年度は２回）、実行委員会である北海道開発局、北海道、北海道経済連合会、（社）北海道商工会議所連合会、北海道港湾協会、（社）寒地港湾技術研究センター、（財）港湾空港建設技術サービスセンター、の主催で開かれており、今回は、平成12年３月末の有珠山噴火を踏まえて「市民生活を支える港」というテーマで、北海道大学大学院の宇井忠英教授による基調講演「北海道の活火山とその災害予測」及びパネルディスカッション「災害に備えたこれからのみなと～有珠山噴火を踏まえて～」が行われました。

宇井教授による基調講演では、①火山噴火と災害、②北海道における主要活火山の噴火と災害、③火山噴火に際して港が抱える課題、の３点について講演をいただき、樽前山が大噴火をおこした場合、ＪＲ、空路、さらに苫小牧港が数ヶ月間使用不能となることが想定されることから、その際の日本海側の港の重要性などを指摘されました。

また、基調講演に続いて、コーディネーターにフリーキャスターの林美香子さん、パネラーにサッポロビール（株）の大井北海道ロジスティクスセンター長、札幌通運（株）の笹林営業本部長、室蘭工業大学の田村助教授、ＮＨＫの齋藤解説主幹を迎え、パネルディスカッションが行われました。大井氏及び笹林氏からは、荷主及び物流事業者として、有珠山噴火時の対応及び輸送への影響についてご発言をいただき、災害時の海上輸送手段確保の重要性を指摘されました。また、田村氏からは、北海道の物流における海上輸送、港湾の重要性、リダンダンシー確保の考え方についてご発言をいただきました。齋藤氏からは、近年の国の厳しい財政状況を踏まえた上で、リダンダンシー確保の観点から港湾整備のあり方についてご発言いただきました。

今回のシンポジウムでは、基調講演とパネルディカッションのほかにも、共催行事として12月１日～３日間、ＪＲ札幌駅北口、西側コンコースにて北海道の港を紹介するパネル展が開催され、多くの人でにぎわいました。

また、シンポジウム当日は、約400名の参加者があり、会場が埋め尽くされるなど盛況のうちにシンポジウムは終了しました。

編集後記

２１世紀を迎え、いよいよ国土交通省がスタートしました。わが北海道開発局もこれに伴い国土交通省の１部局となりましたので、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、１月に入り一面銀世界となり、いよいよ北海道も冬本番といったところです。この季節北海道では、札幌大通り公園の雪祭りをはじめ各地で冬祭りが盛んに行われます。次回の担当では、冬祭りの状況等について報告をしたいと考えております。

編集・問い合わせ先
日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局
国土交通省　北海道開発局　港湾計画課　調査係内
ＴＥＬ：０１１－７０９－２３１１（内線５６１７）
ＦＡＸ：０１１－７０９－２１４７
e-mail：ts-tiba@hda.go.jp